

ブロック：西海ブロック

1. カサゴ 九州北

海域	九州北（福岡・佐賀）	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 福岡県水産海洋技術センター 佐賀県玄海水産振興センター
----	------------	------	---

(1) 調査の概要

- ・機構は、調査指針および状況報告書を取りまとめた。
- ・福岡県および佐賀県は、生物情報収集調査を担当した。

(2) データ収集状況

- ・福岡県、佐賀県において本種が水揚げされる代表的な市場、漁港の仕切りデータを収集した（福岡県は、代表漁協が把握し電算入力を行ったデータを使用。）。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：日本では、北海道から九州南岸の太平洋沿岸、北海道から九州南岸の日本海・東シナ海の沿岸、瀬戸内海、八丈島の岩礁域に生息する（中坊編 2013）。生息域は潮干帯から水深 80m くらいまでの岩礁域や藻場である。
- (2) 年齢・成長：耳石不透明帯の観察結果より、最高 15 本の輪紋が確認されたことから本種の寿命は少なくとも 15 年はあると考えられる（林ら 1995）。成長は個体差、地域差が大きい、以下の成長式が知られている。
- 雄： $L_t = 188.05(1 - \exp(-0.511(t + 0.244)))$
 雌： $L_t = 173.94(1 - \exp(-0.554(t + 0.255)))$ （横川ほか 1992、播磨灘）
- 雄： $L_t = 230.68(1 - \exp(-0.286(t + 0.717)))$
 雌： $L_t = 179.18(1 - \exp(-0.310(t + 1.341)))$ （渡邊 2002、長崎県大瀬戸）
- (3) 成熟・産卵：本種は卵胎生でオスの成熟が進んだ秋以降に交尾し、メスの成熟が進んだ冬～春にかけて全長 4 mm 程度の仔魚を産仔する。九州北部海域における成熟については、雄が早いもので 8 月から、遅れて雌が 11 月から成熟するとされている（カサゴ放流技術開発研究会 1975、水江 1958、水江 1959）
- (4) 被捕食関係：餌生物について地域による差はあまり見られず、エビ・カニ類等の甲殻類が中心だが、遊泳力の低い底着性のものを中心に多様なものを捕食しており、摂餌選択性の幅は広いとされている（有菌ら 1978、横川ら 1992）。被食に関する情報は無いが、一般的に、より大型の魚類等からの被食が中心と推測される。

(4) 備考

- ・農林水産統計対象外であるため漁獲量の把握が難しい。
- ・漁協を通さない市場外流通の存在が判明。
- ・市場への出荷形態が様々で漁獲物の測定が難しい。